

年次報告 2009 年度

(2009 年 1 月 1 日～12 月 31 日迄)



NPO 法人 NY de Volunteer

Where global citizens unite for goodwill in New York

目次

P. 3	代表挨拶
P. 4	2009 年活動一覧
P. 5	Explore Japanese Culture (アフタースクール日本文化紹介企画)
P. 6	国連春祭り
P. 6	美を通じた社会貢献活動・メイク講座
P. 7	9.11 犠牲者追悼式典、灯ろう流し
P. 7	掃除に学ぶ会 Clean Up New York
P. 8	美を通じた社会貢献活動 The Japanese Spa Day
P. 8	Happy Hour Fundraiser
P. 9	ボランティア
P. 10	2009 年度寄付者一覧
P. 11	Thank you & 連絡先
資料:	会計報告 Audited financial statement



代表からのご挨拶

いつも NY de Volunteer (NYdV) をご支援頂き、誠にありがとうございます。

弊団体は、2002年の創立以来、積極的にコミュニティーサービスを提供し、日米の相互理解推進と社会貢献活動の推進に取り組んでまいりました。2009年も、子ども達に日本文化を伝えていく、Explore Japanese Culture アフタースクールを、NIYの唯一の異文化理解推進教育プログラムとして、NY市からの委託事業として実施いたしました。このプログラムは、単なる日本文化紹介にとどまらず、いわゆる貧困層にあって、小さな限られたコミュニティーに生まれ育った子ども達に対して、広い世界への第一歩を踏み入れる機会を提供しています。

子ども達はすべての大人にとって、未来の希望です。どんな環境に生まれようが、すべての子供達が将来の夢を持って育つ権利があるべきだと信じます。

実際に、このプログラムで出会う子ども達の元気一杯の笑顔は、何よりの宝物です。しかしながら、私たちが触れ合っている子ども達の多くは、両親共に刑務所にいるからなどの理由により里親に育てられるなど厳しい環境の中で育っています。ティーンエイジャーになると、学校をドロップアウトし、ギャングの組織に入る子どもや、妊娠してシングルマザーとなったために進学を諦める子どもが多いのが現状です。

小さなコミュニティーで生まれ育った子ども達の周りには、大学に進学したり、コミュニティーの外で安定した職を得るなどした、いわゆる「ロールモデル」となる大人がなかなかいません。そのため、彼らの住むコミュニティーの外には、異なる世界が開けていて、そこには彼らの住む世界の常識以外の価値観があり、様々な人生の選択肢があることを知る機会がないのです。

実際に、NY市がNYdVのExplore Japanese Culture After School programを公式プログラムに取り入れたのは、こういった限られた世界で育つ子ども達が異文化を体験することで、新たな世界を知ることが重要だと考えたからで、NY市としても初めての試みでした。

地球の裏側にある、地図でどこにあるかもピンとこない東洋の日本。「お寿司は食べた事があるけど、アジア人ってみんな中国人じゃないの？」などという子ども達の素直な疑問の数々。今まで日本人とは直接会った事もなかったし、全く未知の日本の暮らしや文化。

それらを体験する2ヶ月のプログラムが終了したときには、子供達が夢を語ってくれます。「日本が大好きになった！もっと日本に詳しくなって将来は、日本の事を子供達に伝えたい！」、「将来は、英語の先生になって世界の色々な国に住んでみたい！」など、今まで彼らの中に存在することのなかった、『世界』が夢になりました。一つ新しい世界を知った子ども達はこれからも楽しんで違う世界を探検していくでしょう。

これまで、約300人の子ども達がこのプログラムに参加してきました。今はまだ、彼らに新しい世界の扉を示しただけに過ぎなくても、この体験が芽を吹き、花を咲かせ、大きな実となるよう、これからもこのプログラムを継続し、充実させ、より多くの子ども達にこの体験をしてもらいたいと考えています。

実際に活動に「ボランティア」参加していただける方、財政面でプログラムの継続を「寄付」で御支援くださる方、どちらの方も貴重な「社会貢献」です。子ども達に大きな「！」と夢を与える種と一緒に植えてくださった皆様に心より感謝いたします。

どうぞ、引き続きのご支援のほど、よろしく願いいたします。

NY de Volunteer
代表 日野紀子



2009 年度 活動一覽

日時	企画名
2月28日	文教大学 NY 研修旅行
3月6日	Explore Japanese Culture After School Program (EJC)
3月20日	EJC 「習字」
3月22-23日	春祭り@国連大学
3月28-29日	本願寺バザー
4月3日	EJC 「折り紙」
4月17日	EJC 「お茶」
5月1日	EJC 「踊りと着物」
5月15日	EJC 「スポーツ」
5月29日	EJC 「食べ物-寿司」
5月31日	Japan Day in Central Park
6月12日	EJC 「ロールモデル」
7月19日	ビジネスアイメイク講座
8月9日	自分でできるパーティ・メイク講座
9月11日	同時多発テロ犠牲者追悼式典・灯ろう流しボランティア
9月18日	自分でできる小顔マッサージ講座
9月25日	Happy Hour Fundraiser
10月23日-12月4日	EJC@ Brooklyn St. John Recreation center (全7回)
10月24-25日	Clean Up NY
11月20日	ベース・メイク講座
12月5日	The Japanese Spa Day
12/9-	EJC@ Jackie Robinson Recreation center (2010年2月3日まで 全7回)

掲載されたメディア

・ よみタイム ・ Business Data ・ I see NY.com ・ テレビジャパン ・ 週刊 NY 生活

2009 年度の功績

ボランティア参加者数： 600 人 (累計参加者数)
 メーリングリスト登録者数： 1,900 名 (日本語 1,550 名・英語 350 名)
 ウェブサイトアクセス者数： 637,170 ヒット
 総受益者数： 10,000 人

2009年の主な活動

Explore Japanese Culture (アフタースクール日本文化紹介企画)



NYdV では、NY 市が運営するリクリエーションセンターのアフタースクールの一貫として NYdV のオリジナル企画 “Explore Japanese Culture An After School Program (EJC)” を実施し、日本文化の紹介を行っています。このプログラムの目的はニューヨークの子ども達が異文化に触れることによって視野を広げ、「世界の一員」として育っていくことであり、ダイバーシティ（多様性を教える）教育が注目されている NY の教育界で高いニーズを担っています。6 歳から 13 歳のアメリカの子ども達に、日本の暮らしや文化を、日本語、日本の遊び、日本食、武道、茶道、踊りなどテーマごとに数回に分けて紹介します。2009 年秋から 2010 年春にかけては、2 年前にも同プログラムを実施した会場に加え、その会場での活動の様子を聞いて「是非うちのところでも！」と依頼があった会場が加わり、計 6 会場で実施しました。活動場所はマンハッタン、ブルックリン、ブロンクス、クィーンズと NY 市内全域にまたがります。以下は、ブルックリン会場にボランティア参加した陽子さんの感想です。「11 月 20 日、EJC 第 5 回目に初めて参加させて頂きました。今回のテーマは『フード（豆腐ハンバーグ）』。調理実習は日本の小学生も大好きだから NY の子供達も楽しんでくれるに違いない、という期待が半分、私で役に立てるだろうか？子供達とコミュニケーション出来るだろうか？という不安が半分でスタートしました。「起立」「礼」「着席」の後は新しいボランティア紹介。ドキドキしながら挨拶すると、子供達が「こんにちは！ようこそさん！」と元気な声で答えてくれたことに、驚きと感動。子供達のお陰で緊張が吹き飛びました。（中略）



そしていよいよ、豆腐ハンバーグの調理開始。「この白いのなに？」「これが豆腐なのよ」子供同士の会話が聞こえてきました。欲張って巨大ハンバーグを作ろうとする子、「みんなの分を残しておいて！」と注意する子、こちらが言うまでもなく、子供達の間で教え合う姿が見られました。（中略）「私のハンバーグは焼けた？」「まだ食べれないの？」と子供達が待ちきれなくなったところで、試食タイム。各テーブルにハンバーグが配られると同時に子供達の笑顔と歓声が弾けました。（中略）

大切そうに抱えながら最後まで残さずきれいに食べる子ども達や迎えに来るお母さんに嬉しそうにハンバーグを見せる子ども達を見て、食べ物大切さも伝わったと気付きました。期待半分、不安半分で初参加した EJC ですが終わってみれば、案ずるより産むが易しのことわざ通り子供達に助けられ、一緒に遊び、楽しい楽しい 3 時間でした。インナーシティエリアの子供達が異文化に触れる機会が無いのと同様人種のるつぼ NY に住んでいても、私が NY で暮らす人達と接する機会もありませんでした。こんなに沢山の笑顔に囲まれたのは NY に来て以来初めての事で豆腐ハンバーグ作りを通して、心の栄養をたっぷり頂きました。」

EJC パートナー団体

下記の団体の皆様には、日本文化の専門家として各会場に足を運び、現地の子供たちにパフォーマンスを披露して下さいました。ご協力誠にありがとうございました。

日本音楽 Cobu, Taiko Masara, Kossan, Carl Taeusch
日本伝統スポーツ Ken Zen Dojo, New York University, Kendo Club

茶道 Sohga-an Omotesenke of New York

日本食 Sunrise Mart

折り紙 Mr. Yoshiko Gonai

囲碁 New York Go Center

ロールモデルゲストスピーカー Mr. Marc Carroll



国連春祭り

2009年3月23日に国連国際学校日本語課にて行われた国連春祭りにNYdVも参加しました。国連春祭りは、NYにある約15の高校で日本語を教える先生達が主体となり、日本への理解と関心を深めることを目的として開催されているものです。当日は、高校生による日本語スピーチコンテストやソーラン節のパフォーマンスなどが行われました。NYdVはブースを設け、ボランティア活動の広報や、会場運営のサポートを行いました。今後とも引き続きこのような活動に積極的に参加し、日本に関心を持っているNYの幅広い層にNYdVの活動を周知していければと思います。

美を通じた社会貢献活動・メイク講座

NYdVでは、今年より「美を通じた社会貢献」の一環として、プロのメイクアップアーティストを講師に迎えてメイクの技術を教わるというメイク講座を開始しました！この活動は、参加者の方にメイクを楽しみながら技術を磨いていただき、習得した技術を例年実施している「The Japanese Spa Day」において、老人ホームの入居者の方にメイクボランティアをする際に役立てていただけるようにする、という、まさに外面と内面の双方から美しくなるための企画といえます。



7月19日に実施した「ビジネスアイメイク講座」を皮切りに、8月9日の「自分でできるパーティーメイク講座」、9月19日の「自分でできる小顔マッサージ講座」、11月20日の「ベース・メイク講座」と合計4回にわたって実施しました。POLAやNARSから提供していただいた化粧品、メイク道具を使い、年間50本以上のウェディングのヘアメイクを手掛ける、ai love hair 代表の阪井愛先生をはじめ、美容コンサルティング会社Beauty comm. Inc. 社長の高橋弘一郎先生、ニューヨークコレクションやテレビ、CM、雑誌等で活躍中のメイクアップアーティスト、根津好恵先生と、一流のプロの先生がその技術を惜しみなく丁寧に教えてくださる講座は、どの回も大好評でした！参加者のみなさんからは、「とてもためになった！」「メイクボランティアに行くのが楽しみ」といった声が寄せられました。

このうち、パーティーメイク講座の様様については、2009年8月22日付けの週刊NY生活（268号）に記事が掲載されました。

9.11 犠牲者追悼式典、灯ろう流し

2009年9月11日、2001年同日に発生した同時多発テロの犠牲者を追悼するため、ニューヨーク本願寺主催により、「911 犠牲者追悼式典・灯ろう流し」がマンハッタンのハドソン川沿いで行われました。

同追悼式典は、国境や宗教の壁を越え、犠牲者への追悼と平和への祈りを捧げるための式典であり、今回で開催8回目を迎えました。

当日は例年にはない激しい雨の悪天候でしたが、40名を超えるボランティアが集まり、手作りの灯ろうを手にとり、式典の参加者にメッセージの記入を呼びかけを行いました。雨足が強かったため、灯ろうへのメッセージが埋



まらないのではないかと懸念もありましたが、予想に反し、たくさんの来場者が。108個の灯ろうは様々な言語で書かれた追悼の言葉、平和への祈りに埋め尽くされ、ハドソン川に静かに浮かべられました。

テロ発生から8年が過ぎ、事件の記憶が風化しつつあると言われるところですが、1年に1回、犠牲者を悼み、世界平和への思いを新たにするという大切な機会ですので、NYdVは今後ともこの活動を継続していきたいと考えております。

掃除に学ぶ会 Clean Up New York

株式会社イエローハットの創業者鍵山秀三郎さんの『掃除哲学』に学ぶという有志の集まりとして平成5年11月に発足された「日本を美しくする会」が、この度7年目のニューヨーク訪問をして、10月24日(土)と25日(日)の2回にわたり、ニューヨークの公共施設の美化活動『ニューヨークお掃除に学ぶ会』を実施しました。日頃から、地元ニューヨークで環境問題に取り組み、美化活動を行っている、Big Apple Beautifiers (New York ごみ大作戦)、Gommunication (ゴミコミュニケーション)、The Urban Divers Estuary Conservancy、また、NY Cares からアメリカ人ボランティアや地元の子供達も共に総計35名が参加しました。



当日の様子レポート

実際の掃除の方法は、会のメンバーである長尾さんが教えてくださいました。(中略) 同時に嬉しい出来事がありました。レクリエーションセンターに遊びに来る、地域の子供たちが掃除のボランティアに参加してくださったのです。その数おおよそ30人!!私と一緒に掃除したのは、ラベンダーちゃんという11歳の女の子でしたが、もくもくと掃除に参加してくれて、タワシと歯ブラシで、壁とハンドドライヤーをピカピカに磨いてくれました。



ある子供たちは雑巾で床を掃除していましたが、NYdVのスタッフであるミチヨさんが「雑巾が汚れるのは、一生懸命掃除をした証だよ～」と子供に教えると、我先に熱心に床を磨き始め、「こんなに掃除したよ、真っ黒でしょ」「私の方が真っ黒だよ、見て見て～」と、嬉しそうに真っ黒な雑巾を見せに来たそうです。日本語で「ピカピカだね～」と子供たちをほめると、子供たちは「ピカピカ(日本語)」を合言葉に大ハッスル。もっと掃除したい!!と思ったのか、窓にあるブラインドの掃除を開始して、またまた、雑巾真っ黒競争が始まりました。きれいになったブラインドから光がさして、部屋が見違えるようでした。

美を通じた社会貢献活動 The Japanese Spa Day

2009年12月5日、マンハッタンのイザベラナーシングホームにおいて、「美を通じた社会貢献活動：The Japanese Spa Day」を実施しました。2004年よりスタートし、NYdVの活動の中でも特に人気の高いこのプログラムはナーシングホームに入居中の方々のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高め、豊かで充実した時間を提供することと、日米の市民交流を目的としています。午前中は、先立つメイク講座でも講師を務めていただいた、阪井愛先生、高橋弘一郎先生、根津好恵先生の3人を講師としてお迎えし、約20名のボランティアがメイクアップワークショップを受講。メイクの基礎、高齢者へのメイクのコツなどを学びまし



た。午後は、浴衣に着替え、華やかな雰囲気にもまれたボランティアに加え、プロのメイクアップアーティスト、ヘアスタイリスト、マッサージ師の専門家ボランティアも加わり、総勢35名でナーシング・ホーム入居者/使用者、約100名を対象にメイク、ヘアスタイリング、ネイル、ARAMA!によるマッサージ、写真撮影などのサービスを行いました。この日大量の化粧品が必要となりましたが、エスティローダー、ポーラ、ナーズなどの有名ブランドから惜しめない商品提供をいただき、ハイエンドなメイク道具を揃える事が可能となりました。また、日本文化紹介を兼ねたこの企画では、シンガーソングライターの河村舞さんが、TSUBASAさんによるピアノ伴奏のもと、懐かしい日本の歌やオリジナルソングなどを紹介。そしてNY太鼓愛好会と美和鼓による、迫力ある太鼓の演奏が披露され会場内は大盛況でした。NYdVがこのプログラムをイザベラで行うのは今回で4回目。入居者の方々はこの日を大変楽しみにされていたようで、サービスを受けた方々は、みな明るく生き生きとした表情にな



っていきのが大変印象的でした。ボランティアに「口紅がよくお合いですね!」と言われると、少し恥ずかしそうに、でも満足げにニッコリと笑う入居者の方々。「今度はいつ来てくれるの?」「写真が出来上がるのが楽しみだわ!」という興奮した声もあちらこちらから聞こえました。各サービスを施す過程で肌に触れることにより、言葉を交わす以上のコミュニケーション（心と心の会話）が生まれ、ボランティア参加者と入居者の方々が共に充実した時間をシェアできる笑顔と感動あふれる一日となりました。

Happy Hour Fundraiser

2009年9月25日、ミッドタウンのSlattery's Midtown pubでNYdVの活動支援のためのイベント、Happy Hour Fundraiserを実施しました!このイベントは、当日会場となったSlattery's Midtown pubに御賛同いただいて、同店の店員をNYdVのスタッフが務め、売り上げのうちチップ分が100パーセントNYdVに寄付されるという仕組みで、初めての試みでした。当日は事前の申込みなどは全く不要、参加費もなしとしたので、果たしてお客様がいらっしゃるのか、大変不安だったのですが、予想を覆して、60



名を超える、国籍も職業も年代も様々な方々が集まってくださいました!この日に集まった、約1,000ドルは2009年秋から始まったExplore Japanese Culture (EJC)の活動運営資金として、大切にに使わせていただいています。今回の成功を受け、今後もこのイベントを継続していく予定です。なお、このイベントは単なるファンドレーズに留まらず、誰でも気軽に「楽しんで」参加できる、ボランティアへの足掛かりとしての意味も兼ね備えています。いきなりボランティアの活動に参加するのは少しためらいが... というような方には、まずは知り合いを作る、活動について話を聞いてみるところからも始められる機会ですので、是非ご参加下さい。

ボランティア

運営ボランティア : Ai Tanaka, Chiaki Kaneko, Hiroko Kawai, Isao Oba, Kana Ishii, Kenji Nakano, Mari Konno, Mari Mizoguchi, Mariko Kuzumi, Masami Koukbo, Mayuko Koike, Megumi Matsumoto, Michiyo Akiba, Mika Kuroda, Sasaki Yukari, Shizuka Kamaga, Taka Juba, Toshiko Nakaura, Yuka Nakamura, Yuko Sasaki, Yurika Mizuno

カール・トイッシュさん

カールさんは、大学で日本文学を勉強され、ロースクール在学中に大学院で日本文学部を専攻する学生から、「牡蠣山伏」という狂言を教えてもらったことをきっかけに狂言に興味を持ち、稽古を始められました。カールさんの初めての舞台は、この学生と二人でハーレムの小学校で演じたときのことです。その後、NY資格の弁護士となり、製薬会社や産業団体の代表役として13年間日本に住むこととなりましたが、その間、狂言師の石田幸男氏のもとで稽古を続け、発表会などで演じてこられました。カールさんは狂言の素晴らしさとして、ユーモアがあり、また、泣く演技も笑う演技もあって、そのどちらも観客がつかれて笑ったり泣きたくなったりするような、人間性に溢れているところと仰います。このように、カールさんはパイリンガルであることはさることながら、日本人でも知らない日本の伝統文化に精通していらっしゃいます。第2の人生を過ごそうとリタイア後にニューヨークに戻って来たカールさんは、日系フリーペーパーで NydV が Explore Japanese Culture Program を実施していることを知って、この活動に共感していただき、運営のサポートをしたいと2009年の2月に連絡をくださいました。さっそく、5/1の活動では、Explore Japanese Culture Programの活動の一貫として狂言を地元の子供達に紹介していただきました。子供達は、はじめてみる日本古典文化に興味津々に見入ってくれました。



また、カールさんは、団体の運営を支えるため、助成金を集める活動にも力も積極的に協力してくださっています。NydVのように、社会貢献活動をしながらい米交流を推進する団体にとってカールさんのように、アメリカと日本の双方の国に住み、それぞれの文化を理解している方からの御支援は、とても心強いものです。このため、アドバイザーとして引き続き団体を支えて下さる事を、ありがたいことに、快諾して下さいました。

ポール・ゴリンさん、友理佳さん御夫妻

お2人は2002年に初めてNydVの活動に参加して以来、NydVの活動に携わってくださっています。現在、ポールさんはNPOでお仕事をされている経験を活かし、助成金申請書の作成等に携わるアドバイザーとして、友理佳さんは、フライトアテンダントとして世界を飛び回るお仕事をしつつ、The Japanese Spa Dayのリーダーを3年にもわたって務めるなど、運営スタッフとしてNydVの活動を支えてくださっています。NydVの活動について思うことやNydVの特徴などについてお聞きしたところ、ポールさんは、「日米交流と社会貢献という2つの役割を同時に果たしているところが大きな特徴ですね。また、NydVの活動は、ボランティアによる受益者だけでなく、参加者も、新しい世界を体験することで、より良い方向に自分の意識を改革することができるなど、双方に良い効果をもたらしています。」と答えてくださいました。さらに、



「NydVの活動は、専門家集団による組織化されたものではなく、誰でも活動に参加することができ、参加した人がアイデアを出し合っ活動が進められていくので、参加者次第でこれからも活動が大きく発展する可能性を秘めていると思います。」とのこと。友理佳さんは、「最初にNydVスタッフとして活動していくことには不安もあったけれど、活動の中で出会えた笑顔や「ありがとう」の言葉に励まされ、少しずつ自分に自信が持てるようになりました。NydVはまさに学びと感動です。」とっこり。また、「どうしても日本ではボランティアという敷居が高い感じがするけれど、NydVの活動は、色々な人と知り合えたり、NYの様々な面を見ることができたりと、ボランティアを「楽しんで」できると思います。少しの勇気で誰にもできることなので、沢山の方に活動に参加して頂きたいです。」とおっしゃいました。

心強いボランティアのサポートを得ながら、NydVはこれからも成長してまいります。

2009 年度 寄付者一覧

Corporate Grant	\$5,000&Up	New York City Department of Parks & Recreation The United States-Japan Foundation	
	\$2,500-4,999	The Japan Foundation Center for Global Partnership Sumitomo Corporation of America Foundation Toyota Motor North America, Inc.	
	\$1,000-2,499	ADK America, Inc. Arc Media, Inc. Dentsu Holdings USA, Inc. Japanese Medical Society of America Inc. Metzger-Price Fund, Inc. The Ripplewood Foundation, Inc.	
	\$500-999	Advanced Wealth Solutions Group, LLC. Johnman U.S.A., Inc. DBA Karaoke champ R2 Systems, Inc. DBA あつとニューヨーク Suntory International Corp. The Healing Lab LLC	
	\$1-499	Law Office of Keiko Kato Midtown Planning Corp. NNB Enterprises Inc.	
	In-kind	ADK America, Inc. Ai Love Hair Beauty Comm, Inc. COBU INC. Estée Lauder Inc. Felissimo Universal Corp of America Johnman U.S.A., Inc. DBA Karaoke champ	MIRAI IT SOLUTIONS, INC. NARS Cosmetics, Inc. Palette POLA USA, Inc. Sunrise Mart TAIKO MASALA, INC. Trend Pot NY, Inc.
Individual	\$500 & Up	Hirofumi Sakaeda Masahiko Kasuga Mutsumi Nakagami	Nozomi Terao Paul Golin Toshihiko Kida
	\$250-499	Carl Tausch Kazutaka Yamada	Miho Fujimura Satomi Kitahara
	\$100-249	Emiko Shiba Fumi Matsuki Hiroyuki Kawashima Jun Kojima Midori Mashiko Reiko Ishida	Shigeaki Nakanishi Taeko Ishida Takeshi Yamaguchi Yoichi Hiroyuki Yuichiro Kuwama
	\$1-99	Asuka Morii Chigusa Suzuki Eri Kurobe Hideaki Iwatani Kayoko Nishitani	Kyouko Ono Michiko Takeuchi Minoru Minamida Takuya Kida Wakako Boland
	In-kind	Itoko Kobayashi Junko Hasegawa Masao Katagami	Miya Ben Wilson Yoshie Nezu Yuri Hoshino

Thank YOU!



皆様のご支援と共に、

今後も活動に精進して参ります。

NY de Volunteer

601 West 110th Street #10K5 New York, NY 10025 U.S.A.

Tel: 212-932-7208 Fax: 212-678-5365

www.NYdeVolunteer.org

staff@nydevolunteer.org
